

2011 年 CAVOK V ヨーロッパ航海 (Lisbon ~ Corsica)

6月4日(土) Gibraltar

風が治まるのを待って今日もジブラルタルでゆっくりする。航海でゆっくりする時間が何ともいえない豊潤な時である。

ここの銀座通りにマーク&スペンサーのデパートがあり紅茶とジャムを仕入れる。

ロンドンジンが£4.5で買えた。生鮮食料を売っている市場があったのでイチジク、ネクタリン、オレンジとガンバス、アサリそして豚の肩ロース、鳥のモモを仕入れる。イチジク、ネクタリンは非常に美味しかった。

お昼は買ったアサリでスパゲッティ・ボンゴレー頂く。午後は、船の掃除、洗濯をしながらくつろぐ。

フランソワーズが地中海用曳き釣の仕掛を作ってくれたり、お昼にビールをご馳走してくれたり、地中海の情報を教えてくれたりしたので、今晚はお返しにベイサイドのレストランに誘い、楽しい夜を過ごす。

6月5日(日) 晴れ 東5 ~ 8 m Gibraltar ~ Estepona 0930/1430 27NM

0910に舫いを解き、給油ポンツーンで軽油を126L入れ満タンにする。税金がなく安いとのことだったが£0.99/Lした。燃費を計算してみると1時間約2.3Lの消費量であった。

ジブラルタル半島をぐるりと回り、地中海に入る。計画ではMarbellaに行く予定であったが、フランソワーズの勧めがありEsteponaに変更する。風は東の7 ~ 8 m クローズホールドの片上りで5 ~ 6KTで気持ちよく海面を滑る。

右に掲げるフラッグをユニオンジャックからスペインの旗に揚げ変える。コスタ・デル・ソルの海岸線を見ながらお昼は生ハム、レタス、トマトのサンドウィッチとスープ、デザートはネクタリンを頂く。

14:30 マリーナのビジターバースに着け、手続をして所定の場所にスターンからの槍着けをする。

ここもスタッフが舫いを取ってくれスムーズに係留できた。

ここから車で30分ほどのところにアンダルシア地方の白い村ベスト4のCasares(カサレス)があるのでタクシーで行く。

イスラム時代13世紀の要塞跡もあり、山の谷間にある白い建物の村の景観は素晴らしいものであった。

夕方(といっても8時だが)船に戻ってから、ガンバス、オリーブでジントニックを飲みながら、夕暮のマリーナの雰囲気を楽しみ、夕飯に豚の肩ロースをご飯と頂く。至福の一時だ。



6月6日(月)曇り時々小雨 西の弱い風 Estepona~Benalmadena 0920/1510 34NM

7、8日が風が強くなる予報が出ているので、今日ベナルマデーナに向け出港することにした。出港して洋上に出たらアフリカ大陸側に雨雲とライトニングあり、懸念して暫らく雲の動きを見ながら機走したが、雨雲とライトニングは我々のコースに近寄ることなく並行して西進しているので途中の避難港を考えながら進むことにした。

途中、軽い雨があったものの、避航することもなくコスタ・デル・ソルの海岸線を眺めながらベルマデーナに到着する。

フランソワーズが地中海用に作ってくれた仕掛けで曳き釣りしたらカツオに似た型の良い魚が釣れた。

お昼は、ジブラルタルで仕入れたラーメンとおじやを海岸線の美しい景色を見ながらビールで頂く。

ここもエスタポナと同じの方法でスターン着けで楽に係留できた。大変豪華な巨大なマリナーでヨーロッパの大リゾート地の感だ。1510にレセプションポンツーンに着いたが、書類等の入港手続と指定の場所に移動して陸電確保等していると1時間近く過ぎてしまう。でも、陽が長くお昼の感じで船を片付け、町に明日のコルドバ観光を調べに行く。夜は、昨日の残りのガンバスと温野菜そして今日の釣果のお魚をお刺身にして食べる。海苔、山葵、梅干しで頂く。たらふく食べても1/4は残り、残りはツケにして明日の朝食とする。お魚が釣れると美味しいのと経費が節約できるので一挙両得である。

6月7日(火) 晴れ一時雨 Benalmadena

今日、明日と風が強い予報が出ているのでここでコルドバ、グラナダの観光をすることにする。

昨日近くのホテルでコルドバへの観光バスの申込をしたが、9日までないとのこと諦め、電車でマラガ経由で行く。マラガからはスペインの誇る新幹線AVEで1時間で着いた。日本の新幹線には足元にも及ばない。

皮肉にもコスタ・デル・ソルに入り、お天気が毎日快晴というわけではなく、今日も時折雨が降ったりするが、晴れ間が出るとカラット日射が強くなる。定番通りメスキータ、アルカーサル、カラオーラの塔、ユダヤ人街をマップ頼りで歩き回る。イスラムとキリストが共存するメスキータ、大理石と赤レンガが交互に組合わさったアーチが限りなく広がり圧倒された。ユダヤ人街では、パテオのあるレストランに入り昼食を摂る。プロウンのガーリック炒め、これがニンニクた

っぷり、オリーブオイルたっぷり、唐辛子が効いてぴりりと食欲をそそった。そしてカラマリのグリルとハモンとチーズのピザを食べる。ブラウンのオリーブオイルたっぷり、私のレシピのひとつとすることにした。皆さん、乞う御期待。

アルカーサルでは皇帝ネロの家庭教師だったセネカ像を見ることができた。帰りの18:15発のAVEを予約してあったので、ローマ橋よりタクシーを拾い、駅に行き、マラガ経由で帰船した。

18,000歩の観光だった。

疲れたので簡単にトマトと鰯のパスタで夕食を摂る。

6月8日(水) Benalmedana 晴れ

グラナダツアーにバスで行く。朝7時集合で何か所かで観光客を拾い満席での出発になる。

途中いくつものうねるような丘を越えて行くが、殆どがオリーブかオレンジ畑である。約3時間弱でアルハンブラ宮殿に到着する。

最初ヘネラリフェ庭園へ、糸杉、サルビア、ジャスミン等と噴水で造園され、見事に水と緑と花が調和されていた。

カルロス5世宮殿そして王宮を見る。アラベスク模様で埋め尽くされた壁面、見事な装飾の円天井と当時の栄華が偲ばれる。



このツアーはお昼つきでホテルのレストランでランチを頂く。2人のイタリア人ご婦人と同席したが、お1人英語の教授だとのこと、60歳過ぎだと思いが、非常に上品で感じの良い方で、また彼女のお友達もスペイン語が話せ、このあとのグラナダの町では一緒にショッピングをした。彼女達はベナルマデーナではなく少し離れた所のホテルであったが、夕食をお誘いしたら喜んで来てくれた。サーモンの握り寿司とカニカマとアドガボの巻き寿司を用意する。

大変喜んでくれ、彼女達が住んでいるシシリー島に来た折には是非寄ってほしいとのこと再会を約してお開きとした。

6月9日(木) 快晴後曇り 南西3~5m Benalmadena~Almunecar 0840/1800 42NM

快晴、無風の中出港、30分位してから南南東から良い風が吹き出し、フルセールで5KTの艇速になる。

地中海に入り進路は東なので、東のヘッドウインド以外はOKだ。そのうち風が南南西に回り、ジェネカーで朝の爽やかな海面を6~7KTで滑る。シェラネバダ山脈もよく見えてきて、山頂付近では残雪があった。

弱いと思っていたジェネカーのタックロープが切れたのでジェネカーを降ろす。横着してブロックを使用しないで、直接取ったのが原因でもある。残り10NMで風が弱くなり3~4KT位になったがゆっくり海岸線の風景を楽しみながらセーリングを続ける。

今日は釣果はなかった。

ここアルムニューカールのMaina del Esteは、とても風光明媚なところで、自然に守られた良港だ。スタッフも非常に親切で設備もきれいで大変気に入った。ここは、フランスのヨット販売会社の社長の関口さんに是非寄ってほしいマリーナといわれたところだった。

夜、フラメンコをアルムニューカールの町迄見に行くのを計画したが、このマリーナが霧囲気があって落ち着くので、フラメンコは次回の寄港地の楽しみとした。夜は鶏のワイン煮込みを赤ワインで頂く。

6月10日(金) Almerim 快晴

自然と調和した素晴らしいマリーナなので一日のんびりマリーナで過ごすことにする。



気持ち良い快晴で白い建物ブーゲンビリヤ、ハイビスカス、ゼラニウムの花が色鮮やかに先白い壁の家とアズールの空、海とお互いに引き立て地中海カラーの中で過ごす。

お昼はCAVOK Vの係留場所の前のレストランで船を見ながら頂く。ランドリーがあったのでクリーニングにシャツ等出す。隣がチャーターヨットで、お客さんが来ていた。マリーナの隣で泳ぐが水温が21度ということで少し冷えるが太陽に熱せられた体が冷えて気持ちが良い。水もきれいで魚が良く見える。

夜はお昼を遅く食べたせいとお腹が減らず9時ごろから食べる。肩ロースの煮込みと、ジャガイモ、温野菜で食べる。食事が終わるころ、今日入ってきたイギリス艇の夫婦がCAVOK Vの前を歩いてきたので一杯誘って暫らくお話をする。彼等もジブラルタルからきて地中海へ同じルートを通るといふことで再会を約束する。明日は彼等も同じAlmerimarに行くとのことで楽しみだ。

6月11日(土) 晴れ後快晴 東3 ~ 5m Almunecar ~ Almerimar 0815/1645 42NM

珍しく霞がかかったような朝で風の無い中出港する。1時間半ほど機走していると真向いたが良い風が吹いてきたのでセーリングに移る。久しぶりの真上りのセーリングになるが5 ~ 7KTで海面を気持ちよく走る。

午後3時過ぎより風が弱くなり、3KT前後のスピードになるがコスタ・デル・ソルの静かな海面を機走せず帆走しながらオンザロックのグラスを傾け太陽とアズールカラーを楽しむ。藤巻さんは、航海最後のレグになる。

ここアルメリマールは、曾てシルバー計画で日本のシルバーの滞在先として開発した部分もあったそうだが、実現できなかったようだ。このマリナーに日本人の林史という方がいて、前もって関口さん(前出日本ベネトウの社長)がCAVOK Vが行く旨、連絡をしておいてくれた。私も、前日連絡をしておいたのでレセプションボンツーンに着けずに、直接係留場所に案内してくれた。地中海方式のスターン着けも慣れてきてかえって係留しやすい。



今日は、林さんは休暇で明日戻るとのことで明日の夕食を約束する。

昨日会ったイギリス艇も入港しており、彼等の次の寄港地も我々と同じSan Joseだ。同方向なので暫らくは一緒になる。

ここは大きなマリナーで、大きなスーパーがあり新鮮なラングスティーンとカラマリがあったので仕入れる。

前菜にラングスティーンをつまみながらジントニックを飲む。夕食にカラマリのガーリックソテーとラタトゥユを頂く。カラマリは新鮮で美味しかった。

残念ながら、ガラスのワイングラスが次から次に割れたのでプラスチックグラスになってしまっている。日比谷夫妻が来るまでにはバカラとはいわないが、地中海に似合うワイングラスを仕入れたいと思っている。

山もあり、山麓の白い壁の家々、また海岸沿いの別荘地、大西洋と中々の眺めであった。メデイナ地区との差があまりにもあり過ぎるように感じた。途中ラクダも乗ったが、アラブの異文化に接して興味を覚えた。夕方8時半のセウタ発フェリーに乗り、ジブラルタルに戻りおそい晩ご飯を近くのレストランで摂り、就寝する。

(続く)